



羽合小学校だより

平成30年12月18日 第17号

はばたけ羽合っ子

文責 校長 山田 直樹

2学期も残り3日となりました。21日（金）には2学期終業式を行います。児童は、12月22日から1月7日（月）まで17日間の冬休みに入ります。きまりよい冬休みを過ごし、1月8日（火）の3学期始業式に全校児童が元気に登校できるよう願っています。



安全で健康な冬休みを過ごすようご指導をお願いします



年末・年始は、児童の生活が不規則になったり気持ちがゆるみがちになったりしやすい時期です。「冬休みのくらし」を配付しますので、ご家庭でもご確認ください。

特に、この時期は、雪が降ったり路面が凍結したりすることがあります。県外車も多くなり、交通事故の恐れも高くなります。学校でも指導しますが、保護者の皆様も「わが子が交通事故に遭ってはいけない」という意識で繰り返しご指導をお願いします。

また、学校では、手洗い・うがいの励行を指導し、インフルエンザや風邪の予防に努めています。引き続きご協力をお願いいたします。

「一年の計は元旦にあり」

皆様がよくご存じのことわざに「一年の計は元旦にあり」（意味：何事もまず初めに計画を立てることが大事である）があります。

このことわざどおりに新しい年をむかえるにあたり、ご家庭で児童に一年間の目標を立てさせてみられてはどうでしょうか？学校は年度で動いてはいますが、運動会、学習発表会、校内マラソン大会など行事に臨む前に、児童は目標を立てその目標に向かって努力していきます。

児童一人一人が節目節目で自分自身の目標を立て、その目標に向けて努力していこうとする意欲を高めることはとても大切なことです。元旦は、児童にとって節目の一つです。その中で、児童の年齢に応じた目標の変化を楽しみにされることもいいと思います。特に、6年生は残りわずかな小学校生活をより充実したものにするためにも目標を立てることは大切なことだと思います。

併せて、ご家族が話し合われる中で、個人の目標だけでなく家族としての共通の目標も持てるようになると思います。

親子のコミュニケーションを意識した年末・年始をお願いします

各学年の人権教育保護者研修会などいろいろな研修で、親子のコミュニケーションの大切さについて改めて考える機会が多くありました。

研修のなかで、児童期の子どもたちの発達課題として次のことを挙げられました。そして、保護者として子どもの話を真剣に聴くことの大切さも話されました。

児童期の発達課題

○「自分はやればできることがたくさんある」という気持ち（有能感）を育む
・子どもは、失敗と成功を繰り返しながら、自分の能力を確認していく。その過程で、時に「あの子にはかなわない」という気持ち（劣等感）を感じながら「有能感」を積み上げてゆく。子どもは、この過程で、自信を大きくしていく。
・この時期に頑張れたこと、チャレンジできたことが少ないと、「有能感」の育みが小さくなってしまう。

○「勤勉性」が「劣等感」を上回る

・頑張れたことが、評価されなかったり認められなかったりすると「あの子にはどうせかなわない」という気持ち（劣等感）が、「真面目にがんばることが大切である」という気持ち（勤勉感）を上回り、「どうせがんばってもダメだ」という自信が持てない心を育んでしまう。

年末・年始は何かと気ぜわしい時期ですが、保護者の皆様に一人一人の子どもたちの話をしっかり聴く機会を意識して持っていただくことをお願いします。そして、頑張ったこと、頑張ろうと考えていることを確認し認めるとともに保護者の皆様の期待や子どもにかけられる願いを伝える機会を持っていただくことをお願いします。